

小鹿野

歌舞伎

埼玉県指定無形民俗文化財
「小鹿野の歌舞伎芝居」



小鹿野歌舞伎さろん

〈小鹿野文化センター2階〉

地芝居として約220年の伝統がある小鹿野歌舞伎で古くから使われてきた衣装や小道具、台本など貴重な資料や歴史を展示しています。

写真や映像でいつでも小鹿野歌舞伎に触れられます。

利用料金：無料
利用時間：9時30分～16時30分
休館日：12月29日～1月3日



小鹿野文化センター ☎0494(75)0063
☎368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野167-1
<http://www.town.ogano.lg.jp/>

「小鹿野歌舞伎」のあらまし

小鹿野歌舞伎は、今から約二百数十年前の江戸時代中ごろに始められました。町内には寛政四年(一七九二)に歌舞伎を上演した記録も残りません。文化・文政期(一八〇四～一三〇)に活躍した初代坂東彦五郎が一座芝居を組織し、その後勇佐座・天王座・大和座と引き継がれ、小鹿野の大和座は長瀬の和泉座とともに明治・大正期に当地域の最盛期を作り、秩父地域はもとより群馬県まで興行を行っていました。

昭和に入り、高砂座・秩父座・梅松座・新大和座と座芝居も大きく

変化し、映画・テレビの影響を受け昭和三十年代以降は衰退の時期を迎えました。

その後民俗文化財保護の機運が高まり、旧大和座系の役者と町内各地で地芝居を続けてきた人たちが合同して昭和四十八年(一九七三)に小鹿野歌舞伎保存会が結成されました。昭和五十年には埼玉県文化財の指定を受けています。

小鹿野町内では十六・小鹿野・津谷木・奈倉・上飯田・両神・小森の六か所に伝承され、それぞれ地元神社の祭りに各地の氏子を中心となって歌舞伎を演じています。

当町では昭和四十六年より始まった郷土芸能祭を始め、年六・七日定期的に上演され「町じゅうが役者」

という歌舞伎の町の面影を残しています。

町内には、常設舞台が十か所残り、掛け舞台や祭り屋台(山車)に芸座・花道を張り出す舞台もあります。

小鹿野子ども歌舞伎、小・中学校での歌舞伎、女歌舞伎、歌舞伎サークルの二座も活躍し、衣裳・かつら・大道具などもほぼ自前で、義太夫・下座・化粧・振り付けをすべて町民でこなし、地芝居のデパートともいわれています。

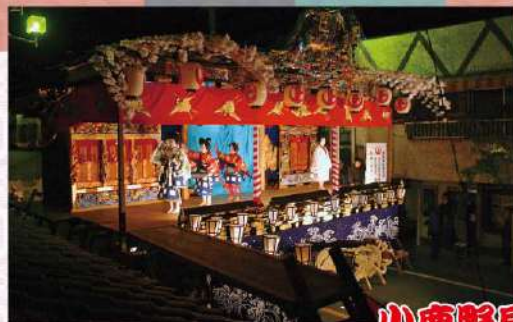
歌舞伎を町の文化使節として派遣する「地域間文化交流事業」も好評を得てこれまで県内外百数十か所で公演しました。歌舞伎を核にしたまちづくりにも活躍し、町の文化イメージアップを図っています。

春夏秋冬益々喝采

小鹿野歌舞伎の一年を締めくくる舞台は、やはり張出・花道付き屋台で上演されます。三番叟の奉納に始まり、地元氏子・上飯田若連による屋夜三度の歌舞伎熱演は寒さをも忘れさせてくれます。近年は地元三田川小学校児童の参加もあり、喝采を浴びています。

十二月第二日曜日と前日

上飯田歌舞伎 鉄砲祭り・八幡神社



上町屋台

小鹿野屋台歌舞伎

春日町屋台



四月第三土曜日の前日(小鹿野春祭り)

小鹿野春祭りは、極彩色の彫刻・飾り金具など、豪華に裝飾された四基の屋台・笠鉾が町中を曳行される祭りです。祭り初日の夕刻、二基の屋台はそれぞれに張出舞

台と花道を広げ、小鹿野歌舞伎、若衆歌舞伎、そして子ども歌舞伎が奉納されます。街道には敷物が準備され、そのまま見物席となります。



町内に六か所歌舞伎の本拠地

□は現存する歌舞伎舞台

*祭りの日程が変更される場合や特別公演もあります。事前にお問い合わせください。



両神・小森歌舞伎 諏訪神社祭り

十月第二土曜日

もともと歌舞伎の盛んだった両神地区。「小森祭りと文化を守る会」による小森歌舞伎と子ども歌舞伎が熱の入った歌舞伎を奉納しています。



小鹿野文化センター
歌舞伎・郷土芸能祭



十一月第三日曜日と前日

小鹿野町主催で行われる文化イベント。小鹿野野歌舞伎保存会や小鹿野子ども歌舞伎、小鹿野中学校による歌舞伎はもちろん、神楽、獅子舞、八木節、秩父囃子など、町内の伝統芸能団体が二日間に渡り熱演を繰り広げます。

津谷水歌舞伎 お天狗様・木魂神社祭り



五月三日

下小鹿野津谷水集落のほど近く、小高い山の頂に常設される歌舞伎舞台。新緑の季節に斜面を活かした見物席から見る歌舞伎は、神社氏子・若連有志の役者も層が厚く、多く訪れる見物客を魅了しています。

小鹿野歌舞伎上演目録

(両神・小森歌舞伎含む)

妙見宮は小鹿野町の北東端、奈倉地内。ここは全国でも珍しい女性だけの歌舞伎一座。妙見様は女性の神様なので女歌舞伎を奉納すれば神様も喜ぶだろうという理由もあるらしい。その堂々たる芝居ぶりが大人気です。

十月第一土曜日

奈倉女歌舞伎 妙見宮祭り



十六歌舞伎 日本武神社祭り

三月第二土曜日

小鹿野に春を告げる、通称「十六歌舞伎」。地元の十六若連が奉納し、神楽殿兼用の常設舞台上で演じられます。また、歌舞伎と神楽を同じ役者が演じることもあります。

